

# ビームラインのカテゴリー分け

## 背景

- ・PFでは少ないビームライン担当スタッフ(実質30名)で多数のビームライン、ステーション(計70、内56がPF管理)の共同利用を支えており、他施設(JASRIは338、APSは405、ESRFは600:総員)と比較して、極端に負荷が大きい。
- ・多数のビームラインを平均的に支援してきたため、広く浅くなっている。内部からピークを出すためには重点化が必要。
- ・基盤的研究資金が削減され、均等に支援してはどれも中途半端になりかねない。
- ・共同利用支援に対する評価が下がり、PF自ら成果を上げることが求められている。
- ・評価でも「スタッフ増が困難とすれば...PFが維持・管理するビームライン数を適正值まで減少させることも必要」、「支援・投資のレベルに段階を付けることも検討すべき」とされている。

## 目的

- ・PFが力を入れているビームラインを明確にし、中期的な整備計画を明らかにする。
- ・重点的な投資により、高性能で競争力のあるビームラインを整備する。
- ・ユーザーにも使用しているビームラインの位置付けを理解してもらい、将来について真剣に検討して頂く。
- ・意欲、力のあるパワーユーザーが資金を持ち込み、特徴ある研究を展開するトリガーとしたい。

## カテゴリー分けの判断基準

- ・アクティブに研究活動が行われているか。ビームタイムの需給状況、報文出版状況、報文のインパクト等。(分野による出版状況の差や有効なビームタイムの長さの差も考慮する)
- ・性能的に相当な競争力を有しているか。
- ・支援を必要とするユーザーが多数いる場合、支援体制(専任スタッフ、協力ビームライン、PRT等)を組めるか。支援をする研究者はコミュニティの中で評価されているか。
- ・直線部増強時のビームライン整備も視野に入れる。また、国内他施設の状況も視野に入れる。
- ・評価意見も参考とする。

## 各カテゴリーの持つ意味

- S: PFとして重点的に整備・支援する。このため積極的に投資する。
- A: 当分の間、共同利用を支援するために必要な投資を行う。
- B: PFとしては共同利用支援、投資を抑制し、大きな投資が必要となる場合は閉鎖をする。外部資金を投資する場合は全体計画との整合性を見て判断する。
- C: 所定の期間後に閉鎖する。または跡地利用案が固まるまで存置する。安全性確保等以外の投資は行わず、一定程度以上の投資が必要となる場合は閉鎖する。

## 手続き

- ・PFとしての案をまとめる。
- ・PACの研究計画検討部会、懇談会等で議論する。
- ・PFニュース、web等で広報する。

## 参考

同様のカテゴリー分けはDaresbury Lab.でも行われている。

Category A implies a high level of support for the station and significant capital investment [30 stations]

Category B implies little or no support and minimal or external investment [4 stations]

Category C stations will be, or have been closed [15 stations]